

Next YOKOHAMA

第394回 横浜定期演奏会

魔性のダンス —日本フィルの「伝統」、カーチュンによって新たな展開へ

2024年1月20日(土) 17:00 横浜みなとみらいホール

指揮: カーチュン・ウォン [首席指揮者]

ピアノ: 上原彩子

伊福部昭: 舞踊曲《サロメ》より
「7つのヴェールの踊り」

ラフマニノフ: パガニーニの主題による
狂詩曲 op.43

ベルリオーズ: 幻想交響曲 op.14

© Angie Kremer



カーチュン・ウォン

© 武勝章



上原彩子

S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C ¥5,000 P 完売 Ys (25歳以下) ¥1,500

※ Ys席はS席以外から選べます。

※ 車いすおよび障害者手帳をお持ちの方は、サービスセンターへお問い合わせください。

好評発売中!

ニューイヤーコンサート2024 第252回 芸劇シリーズ

2024年1月14日(日) 14:00

東京芸術劇場

指揮: 川瀬賢太郎

ピアノ: 清水和音

© Mana Miki



清水和音

© Yoshinori Kurosawa



川瀬賢太郎

チャイコフスキー:

歌劇《エフゲニー・オネーギン》より「ポロネーズ」

チャイコフスキー: ピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 op.23

J. ショトラウスⅡ世: ポルカ《ハンガリー万歳》op.332

ブラームス: ハンガリー舞曲第5番

J. ショトラウスⅡ世: ワルツ《南国のバラ》op.388

レスピーギ: リュートのための古風な舞曲とアリアより「シチリアーナ」

J. ショトラウスⅡ世: 喜歌劇《こうもり》序曲

S ¥7,000 A ¥5,500 B ¥5,000 C ¥4,000 Gs(65歳以上) ¥4,000 Ys(25歳以下) ¥1,500

Ys(ヤング・シート)、Gs(グランド・シート)はS席以外からお選びいただけます。



人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。
JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA
— 創立指揮者 渡邊 暁雄 —

日本フィルハーモニー交響楽団
JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

第393回

横浜定期演奏会

393rd YOKOHAMA Subscription Concert

2023年12月16日(土) 午後5時開演

横浜みなとみらいホール

5:00pm, December 16th (Sat), 2023 at Yokohama Minato Mirai Hall



主催: 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援: 神奈川新聞社、TBS

協力: 横浜みなとみらいホール

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))

独立行政法人日本芸術文化振興会



文化庁

器楽と声楽の融合の彼方に ― 広上と若き歌手陣が謳い上げる「歓喜の歌」

今年は日本フィルの「フレンド・オブ・JPO (芸術顧問)」である広上淳一マエストロが登場です。モダン・オーケストラだからこそ再現できる力強いベートーヴェンを求めて、若き合唱団と素晴らしいソリストとともに広上芸術が華開きます。東京音楽大学は広上が指揮活動とともに情熱を注ぎ込む教育活動の成果そのものであり、抜群のクオリティを誇ります。ソリストも広上こだわりの若手精鋭が集結。伝統と革新が相まった唯一無二の「第九」をお届けします。

Programs

ケルビーニ: 歌劇《アナクレオン》序曲 (約9分)

Luigi CHERUBINI: "Anacréon" Overture

———— 休憩 (15 分) Intermission ————

ベートーヴェン:

交響曲第9番《合唱》ニ短調 op.125 (約70分)

Ludwig van BEETHOVEN: Symphony No.9 "Choral" in D-minor, op.125

指揮: 広上淳一 [フレンド・オブ・JPO (芸術顧問)]

Conductor: HIROKAMI Junichi, Friend of JPO/Artistic Advisor

ソプラノ: 竹下みず穂 Soprano: TAKESHITA Mizuho

メゾ・ソプラノ: 但馬由香 Alto: TAJIMA Yuka

テノール: 工藤和真 Tenor: KUDO Kazuma

バリトン: 池内 響 Baritone: IKEUCHI Hibiki

合唱: 東京音楽大学 Chorus: Tokyo College of Music

コンサートマスター: 扇谷泰朋 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: OGITANI Yasutomo, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ: 門脇大樹 [日本フィル・ソロ・チェロ]

Solo Violoncello: KADOWAKI Hiroki, JPO Solo Violoncello

指揮: 広上淳一

[フレンド・オブ・JPO (芸術顧問)]



東京生まれ。尾高惇忠にピアノと作曲を師事、音楽、音楽をすることを学ぶ。東京音楽大学指揮科卒業。26歳で第1回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクールに優勝。以来、フランス国立管、ベルリン放響、コンセルトヘボウ管、モントリオール響、イスラエル・フィル、ロンドン響、ウィーン響などメジャー・オーケストラへの客演を展開。これまでノールショピング響、リンブルク響、ロイヤル・リヴァプール・フィル、コロナバス響のポストを歴任。近年では、ヴァンクーヴァー響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ミラノ・ヴェルディ響、サンクトペテルブルク・フィル、バルセロナ響、モンテカルロ・フィル等へ客演。国内では全国各地のオーケストラはもとより、サイトウ・キネン・オーケストラ、水戸室内管にもたびたび招かれ絶賛を博している。オペラの分野でもシドニー歌劇場へのデビュー以来、数々のプロダクションを指揮。2008年より京都市交響楽団常任指揮者、14年よりミュージック・アドヴァイザーも兼務。15年には同団と共にサントリー音楽賞を受賞。20年より常任指揮者兼芸術顧問、14年間にわたり京都市交響楽団と共に輝かしい時代を築いた。現在はオーケストラ・アンサンブル金沢アーティスティック・リーダー、日本フィルハーモニー交響楽団 フレンド・オブ・JPO (芸術顧問)、札幌交響楽団友情指揮者、京都市交響楽団 広上淳一、京都コンサートホール館長。また、東京音楽大学指揮科教授として教育活動にも情熱を注いでいる。



← YouTube チャンネル

【5分でわかる大人のためのオーケストラ入門】
今月のイチオシ

この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムをご用意しております。ご要望の方は主催受付までお申し出ください。

お客様へのお願い ●演奏中はお手持ちの時計のアラーム、または携帯電話などの電源はお切りください。手荷物、傘、チラシ類などの物音、話し声や体の動きなどで他のお客様のご迷惑にならないようご配慮をお願い申し上げます。尚、録音、録画、演奏中の写真撮影は固くお断りしております。



ソプラノ: 竹下みづ穂

そのみずみずしい歌声と傑出した表現力は各方面で観客を魅了し高い評価を得ている。お茶の水女子大学卒業、同大学院修了。アメリカのマネス音楽院にてアーティスト・ディプロマを取得。ニューヨークを拠点とし、アメリカ各地で数多くのオペラやコンサートに出演。ニューヨーク・タイムズ紙では、「流れるように美しいコロラトゥーラ」と絶賛された。2018年にはワシントンDCにてオペラ《ランメルモールのルチア》でタイトルロールを歌い大成功を収めた。日本では、NHK交響楽団や東京都交響楽団との共演や世界的指揮者パヴァー・ヤルヴィ氏や大野和士氏らとの公演も重ねている。また、各地でソロ・リサイタルやオーケストラ公演に出演するなど、日本での活動の場を広げている。

© Yoshinobu Fukaya



メゾ・ソプラノ: 但馬由香

武蔵野音楽大学卒業、同大学大学院修了。第31回飯塚新人音楽コンクール第1位。藤原歌劇団において《ラ・チェネントラ》のティーズベでデビュー以降、《どろぼうかささぎ》ピッポ、《ノルマ》クロティルデ等で出演。2018年《ラ・チェネントラ》にて初のタイトルロール、21年・22年・23年《蝶々夫人》スズキ、22年《イル・カンピエッロ》のオルソラで出演。新国立劇場には20年《夏の夜の夢》ハーミア、21年《蝶々夫人》のスズキ等で出演し高い評価を得る。24年1月28日、藤原歌劇団《ファウスト》ジーベルにて出演予定。藤原歌劇団団員。

© FUKAYA/auraY2



テノール: 工藤和真

東京藝術大学卒業。同大学院修了。声楽を小原一穂、佐々木朋也、市原多朗の各氏に師事。第84回日本音楽コンクール声楽部門第2位、第53回日伊声楽コンクール第1位及び歌曲賞(岡部多喜子・嶺貞子賞)、第17回東京音楽コンクール声楽部門第2位(最高位)及び聴衆賞、2023年には第2回ジュディッタ・バスタ記念熊本復興国際オペラコンクール第1位など受賞多数。オペラではNISSAY OPERA《トスカ》カヴァラドッシ、《カプレーティとモンテッキ》テバルド、藤沢市民オペラ《ナブッコ》イズマエーレ、新国立劇場《ボリス・ゴドゥノフ》グリゴリーなどで出演。2024年2月には東京芸術劇場コンサートオペラ オフフェンバック《美しきエレース》パリで出演予定。

© T.Tairadate



バリトン: 池内 響

東京藝術大学大学院オペラ科修了。第25回宝塚ベガ音楽コンクール第1位及び会場審査員特別賞、第25回松方ホール音楽賞、第20回東京音楽コンクール声楽部門第1位及び聴衆賞、第56回ヴェルディの声国際コンクール入選(伊)、第10回サルヴァトーレ・リチートラ声楽コンクール優勝(伊)等、国内外で多数の受賞歴を持つ。第37回姫路市芸術文化奨励賞、第25回坂井時忠音楽賞、2020年兵庫県芸術奨励賞を受賞。ヘンデル「メサイア」、ベートーヴェン「第九」、フォーレ「レクイエム」等のソリストを務めるほか、オペラではNISSAY OPERA 2015《ドン・ジョヴァンニ》タイトルロールをはじめ、2021《ラ・ボエーム》マルチェッロ、宮崎国際音楽祭《仮面舞踏会》レナート等で出演。



合唱: 東京音楽大学

東京音楽大学合唱団は「合唱」授業科目の履修者から選抜された学部生と声楽専攻の大学院生を中心に構成する混声合唱団で、国内外の著名オーケストラと数多くの共演を果たしている。日本フィルハーモニー交響楽団との共演は、「第九」を始めて1979年以来40年以上の歴史を持つ。2023年には日本フィルハーモニー交響楽団「クレルヴォ交響曲」「第九」「道化師」「カルミナ・ブラーナ」に出演。他に2019年11月にNHK音楽祭「シンフォニック・ゲーマーズ4」、2021年6月に「めぐろで第九 2020+1」、2022年8月に「フェスタサマーミュージア KAWASAKI 2022」に出演。合唱指導は2022年度より、志村文彦、藤牧正充、浅井隆仁の各氏に加え、フレンドリー・アドバイザーとして広上淳一氏を迎えている。



今日のコンサートの聴きどころは？
ヨーロッパ文化史研究家小宮正安さんの
面白解説をお楽しみください！

16時20分
より
大ホール内
にて♪

小宮正安(こみや まさやす) ●ヨーロッパ文化史・ドイツ文学研究家。横浜国立大学(大学院都市イノベーション学府・都市科学部)教授。著書に『コンスタンツェ・モーツァルト(悪妻)伝説の虚実』(講談社選書メチエ)、『名曲誕生 時代が生んだクラシック音楽』(山川出版社)、『音楽史 影の仕掛人』『オーケストラの文明史 ヨーロッパ3000年の夢』(春秋社)、『モーツァルトを「造った」男 ケッヘルと同時代のウィーン』(講談社現代新書)、『愉悦の蒐集 ヴンダーカンマーの謎』(集英社新書)など多数。『ウィーンフィル・ニューイヤーコンサート』でのコメンテーターをはじめテレビやラジオへの出演、『東京・春・音楽祭』でのナビゲーターなど、幅広い分野で活躍している。

ケルビーニ：歌劇《アナクレオン》序曲

解説：小宮正安

ルイジ・ケルビーニ (1760-1842) は、イタリアに生まれ、フランスで活躍した作曲家。とりわけ歌劇の分野でヨーロッパ全土に名声を広め、1805 年にはベートーヴェンが活躍していたウィーンにも客演を果たすほどの人気を博した。ベートーヴェン自身もケルビーニを大変尊敬しており、その作風を深く研究している。

その一例が、1803 年にパリ・オペラ座のサル・モンタンシエで初演された歌劇《アナクレオン (またはつかの間の恋)》。古代ギリシャの詩人アナクレオンになぞらえて、社会からの無理解に晒されながらも、自らの信念や愛を貫く芸術家のあり方がテーマとなっている。

このように、歌劇の筋書自体、いかにもベートーヴェンが好みそうなものとなっている。しかも序曲を聴いただけでも分かるように、きわめてドラマティックであり、巨大なスケールを具えた内容だ。芸術家の苦悩と歓喜をこれでもかと表現するかのように、明と暗の頻繁な入れ替わり、弱音から強音に至る幅広いダイナミクスや楽器の響きなど、そこにはベートーヴェンがケルビーニから学び取った要素が溢れている。

楽器編成 フルート2 (ピッコロ持替1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、ティンパニ、弦楽5部。

ベートーヴェン：交響曲第9番《合唱》ニ短調 op.125

日本フィル企画制作部 監修：小宮正安

ゲーテと並び称される、ドイツの詩人フリードリヒ・フォン・シラー (1759-1805)、その彼が書いた頌歌「歓喜に寄す」が生まれたのは1785年であり、4年後にはフランス革命が勃発する。このようにヨーロッパ全体が激動の時代を迎えた最中に青春時代を過ごしたベートーヴェンは、フランス革命の掲げる“自由・平等・友愛”の理想に共鳴する。そしてやがて、「歓喜に寄す」に基づいて曲を作るという構想を抱くようになった。

交響曲第9番 (通称「第九」) 創作のスケッチがベートーヴェンの作曲ノートに現れ始めるのは1818年頃のこと、早くも第1楽章の断片がそこに見られる。ただしその後しばらくは、「荘厳ミサ」など他の大作に没頭。4年間の空白期間を経た1822年頃に再着手し、翌23年には第1楽章から第3楽章までの主要な楽想を整え、1824年2月中旬までには全曲を完成した。なお全曲完成のほぼ半年前に、それまで別構想として持っていた「歓喜に寄す」のカンタータを、交響曲の終楽章に加えることを決め、現在のようにな形になった。

ここに着想から約6年、「歓喜に寄す」を音楽化するという構想から数えれば実に約30年を費やしたベートーヴェンの畢生の大作「第九」が誕生した。しかもそれは、“合唱付交響曲”という、当時としてはかなり珍しい形の交響曲となった。「交響曲」は元々、

器楽の「響き交わし (Sym-phonía)」という意味合いから生まれた言葉だが、この「第九」をもって交響曲は、声楽をも含んだ器楽作品としての新たな可能性を得ることとなる。

なお初演の際、すでに聴覚を失っていたベートーヴェンにはこの作品を完全に指揮することは不可能だった。しかし彼はあくまでも自作自演の意思を捨てなかったため、補助指揮者としてウィーンの宮廷楽長ウムラウフが立ち、その結果ステージの上には2人の指揮者が現れるという、前代未聞のステージとなった。さらにリハーサルは2回しかおこなわれず、独唱者も男声が直前に交代、オーケストラや合唱は宮廷劇場付属の音楽家と音楽愛好家の臨時混合編成など、初演そのものの質については決して高くなかった模様である。にもかかわらず、初演は熱狂的な反応を引き起こした。

フランス革命が起きてから30年あまり。革命の理想とは裏腹の厳しい現実が次々と世界を襲う中、それでも革命の精神を生涯にわたって守り続けたベートーヴェンとシラーの芸術的メッセージに、市民階級をはじめとする多くの人々が共感したからに他ならない。

第1楽章：アレグロ・マ・ノン・トロppo、ウン・ポーコ・マエストロ、ニ短調。

冒頭の弦楽によるトレモロは、天地創造の混沌を思わせるように不安定に響く。その後第1主題が、激しく下降するニ短調の分散和音型として呈示された後、“歓喜の主題”を思わせる穏やかな第2主題が続く。この2つの主題が様々に切り結び合いながら楽章が展開を遂げた後、最後は英雄の死を思わせる葬送行進曲風の楽想が現れる。

第2楽章：モルト・ヴィヴァーチェ、ニ短調。

ベートーヴェンが得意としたスケルツォ楽章。外観は中間にトリオ部を持つ伝統的な三部形式だが、両端のスケルツォ主部それぞれ自体がソナタ形式 (主題の呈示～展開～再現) という、凝った“入れ子構造”にもなっている。

第3楽章：アダージョ・モルト・エ・カンタービレ、変ロ長調。

瞑想的な第1主題と、アンダンテ・モデラート、ニ長調の第2主題が交互に現れる。厳しい表情の前2楽章に対し、ここの長大な楽章では、天国的な安息感が満ちる。

第4楽章：プレスト、ニ短調。

オーケストラのみによる序奏は、不協和音の爆発、そして低弦が奏でる朗唱風の重々しいメロディにより始まる。このメロディは前の3つの楽章の主題をすべて一第3楽章の安らぎをも一否定し、やがて“歓喜の主題”が姿を現す。続いて、件の朗誦風のメロディをバリトン独唱が歌い出し、これまで展開されてきた「器楽のみ」による交響曲のあり方をも否定。声楽と器楽の新たな響きが作られてゆく。死せる英雄が死後赴く楽園からやってきた喜びが、この世界に失われた自由や友愛をもたらすという、シラーの「歓喜に寄す」のメッセージ。それをベートーヴェンが音楽によって昇華させた、壮大なフィナーレである。

楽器編成 独唱ソプラノ、独唱アルト、独唱テノール、独唱バス、混声合唱 (ソプラノ、アルト、テノール、バス)、ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラ・ファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、トライアングル、弦楽5部。

Ode "An die Freude" von Friedrich Schiller
フリードリヒ・シラー 頌歌“歓喜に寄す”より

歌詞対訳：小宮正安

O Freunde, nicht diese Töne!
Sondern laßt uns angenehmere
anstimmen und freudenvollere.
(L.v.Beethoven)

Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken,
Himmlische, dein Heiligtum.
Deine Zauber binden wieder,
Was die Mode streng getheilt,
Alle Menschen werden Brüder,
Wo dein sanfter Flügel weilt.

Wem der große Wurf gelungen,
Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen,
Mische seinen Jubel ein!

Ja, wer auch nur eine Seele
Sein nennt auf dem Erdenrund!
Und wer's nie gekonnt, der stehle
Weinend sich aus diesem Bund!

Freude trinken alle Wesen
An den Brüsten der Natur;
Alle Guten, alle Bösen
Folgen ihrer Rosenspur.

Küsse gab sie uns und Reben,
Einen Freund, geprüft im Tod;
Wollust ward dem Wurm gegeben,
Und der Cherub steht vor Gott.

Froh, wie seine Sonnen fliegen
Durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet, Brüder, eure Bahn,
Freudig wie ein Held zum siegen!

Seid umschlungen Millionen!
Diesen Kuß der ganzen Welt!
Brüder - überm Sternenzelt
Muß ein lieber Vater wohnen.

Ihr stürzt nieder, Millionen?
Ahndest du den Schöpfer, Welt?
Such' ihn überm Sternenzelt!
Über Sternen muß er wohnen.

おお友よ、このような音ではだめだ！
そうではなく、もっと快い音に
賛同しよう そしてもっと喜びに満ちた音に
(以上ベートーヴェン作詞)

喜び、それは美しい神々の閃光
死せる英雄が赴く楽園の世界の娘
私たちは足を踏み入れる、炎に酔いしれつつ
素晴らしいあなたの聖所へと
あなたの魔法は再び結びつける
世のしきたりが厳しく隔てていたものを
全ての人々は兄弟となる
あなたの柔らかな翼が憩うところ

大きな幸いを得た人、つまり
友を友とできた人
優しい妻を得た人は
その喜びを共にしよう！

そうだ、たとえたったひとつの魂であっても
自分のものと呼べるものを世界で持つ人は！
そしてそれができない者は、そっと立ち去るがよい
涙しながらこの集まりの外へ！

全ての存在は喜びを飲む
自然の乳房から
善人と呼ばれる人も、悪人と呼ばれる人も皆
ばらの道をゆく

喜びは私たちに接吻と葡萄酒とを与えてくれた
そして死の試練をのりこえた友も
快楽などは虫けらに与えてしまえ
そうすればケルビムが見えてくる、神の前に

朗らかに、創造主の恒星が飛翔するように
天の輝かしい運行の中を
進め、兄弟よ、君たちの行く道を
喜びに満ちて、勝利へ向かう英雄のように！

抱かれよ、数多の人々よ！
この接吻を全世界に
兄弟たちよ、星の輝く天幕の彼方には
慈愛に満ちた父がいるに違いない

ひざまずくか、数多の人々よ？
創造主を感じるか、世界よ？
その方を星の輝く天幕の彼方に探せ！
星の彼方にその方はおられるに違いない



Column

歴史でひもとく！ ～クラシックこぼれ話 by 小宮正安



忘れられた巨人 ケルビーニ

本日の演奏会の冒頭で演奏される『アナクレオン』序曲
を作曲したケルビーニ。現在ではほとんど忘れ去られてし
まった存在であり、よくてごくたまに、ベートーヴェンとの
関係で引き合いに出される程度にすぎない。だが曲目解説
でも書いたように、生前の彼は、場合によってはベートーヴェ
ンを凌ぐほどの有名人だった。またベートーヴェンその人にも、
様々な影響を与えた。

ケルビーニは1760年の生まれ。ベートーヴェンよりも、ちょ
うど10歳年上にあたる。イタリアに生まれ育ったものの、
統一もままならず、政治的にも経済的にも地盤沈下を起こしつつあった祖国を後に、革命
前夜のパリへ移った。そしてフランス革命後、持ち前のドラマティックかつヒロイックな音
楽を武器に、混乱の中で自由を求め続けたパリっ子の心を、オペラの作曲を通じて驚掴
みにしていった。

そんなケルビーニが、1800年に発表したオペラがある。題して『二日間』。内容はとい
えば、陰謀に巻き込まれて捕らえられた政治家が、2日間というタイムリミットの中で無事
救出されるというものだ。…と書くと、ベートーヴェン唯一のオペラであり、「第九」にも大
きな影響を与えた『フィデリオ』(原題『レオノーレ』)によく似ているが、それもそのはず。
ベートーヴェンはケルビーニを自身の手本としており、『フィデリオ』も『二日間』から大きな
影響を受けて書かれたのである。

だが、オペラは時代の嗜好に左右されやすい。フランス革命の混乱を突いて頭角を現
したナポレオンが10年あまりにわたって権勢をふるうものの、彼もやがて失脚。その後は、
フランス革命で処刑された国王ルイ16世の弟が、あらためてフランス王に返り咲くという
保守反動の時代が始まる中、革命の熱気を宿したケルビーニのオペラは評価されなくなっ
てゆく。そうした中で、彼はオペラ界に背を向け、宗教音楽や室内楽作品の作曲を専ら
としていった。

晩年のケルビーニはパリ音楽院の院長の座につき、社会的な栄光には包まれて長寿を
全うするが、その胸中ではどのようなものだったか。彼が81歳で息を引き取ったのは1842年、
ベートーヴェンが世を去って既に15年が流れていた。



ケルビーニ 1803年
ポリンガー画。

ベートーヴェンを彷彿させる髪
型や服装が特徴となっている。

■定年のお知らせ

第2 ヴァイオリンの山田千秋が2023年11月20日に定年を迎えました。1985年6月に入団し、セクションで活躍してまいりました。定年後も引き続き嘱託の奏者として演奏いたします。今後ともご期待ください。

■テレビ番組レギュラー出演のお知らせ

日本フィルがBSに。指揮者が語るミニ番組!『Welcome クラシック』BS朝日 毎週水曜日22:54~23:00(第3週、第4週は再放送)。1月からは首席指揮者カーチュン・ウォンも登場。ぜひご覧ください!

■本日の公演は終演時のカーテンコールでの写真撮影が可能です。

携帯電話・スマートフォン付属のカメラで着席のまま撮影をお願いいたします。フラッシュ、動画撮影はお控えください。詳しくは会場の掲示をご覧ください。

好評発売中!

◆2023/2024 春季東京定期演奏会
会員券/1回券

◆2023/2024 春季横浜定期演奏会
会員券/1回券

◆コバケン・ワールド Vol.36

2024年3月17日(日) 14:00
サントリーホール

指揮:小林研一郎 [桂冠名誉指揮者]

フルート:真鍋恵子 [首席奏者]

ドビュッシー:小組曲

モーツァルト:フルート協奏曲第2番

ベルリオーズ:幻想交響曲

S ¥6,800 A ¥5,300 B ¥4,200 P ¥3,200
Ks ¥1,500 Gs ¥4,500

◆定期会員券ご寄付のお願い◆

お客様のご都合により、定期演奏会にご来場いただけなくなった時は、是非日本フィルにチケットをご寄付ください。有効に活用させていただきます。

【寄付の方法】

ご寄付いただける会員券の公演日・座席数・座席番号を日本フィル・サービスセンターにお電話かFAX、メールにてご連絡の上、会員券をご郵送ください。主催会場でも受け付けます。

- 公演1週間前のご寄付に関しては、会員券のご郵送は不要です。●会員券のご郵送代はお客様にてご負担いただきます様ご協力をお願いいたします。
- ご寄付いただいた定期会員のお客様には、ご寄付いただきました公演月のプログラム冊子を後日ご郵送いたします。また、翌月または翌々月のプログラムにご芳名を掲載させていただきますので、掲載をご希望されないお客様はご連絡をお願いいたします。

横浜定期演奏会の定期会員券をお譲りいただきました。
心より御礼申し上げます。

11月の寄付者 匿名2名

敬称略・五十音順

◆第253回 芸劇シリーズ

2024年3月10日(日) 17:00 東京芸術劇場

指揮:鈴木織衛 出演: SUPER BRASS STARS

和泉宏隆(エリック・ミヤシロ編曲):宝島 他

SS ¥7,000 S ¥6,000 A ¥4,500 B ¥4,000
C ¥3,000 Ys ¥1,500 Gs ¥3,000

◆第254回 芸劇シリーズ

もうすぐ
発売!

2024年4月28日(日) 14:00 東京芸術劇場

指揮:ピアノ:横山幸雄

2024年1月19日発売

ショパン:

《ドン・ジョヴァンニ》の「お手をどうぞ」の主題による変奏曲

アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ

ピアノ協奏曲第2番

日本フィル・サービスセンター

〒166-0011

東京都杉並区梅里1-6-1

TEL: 03-5378-5911 (平日10時~17時)

FAX: 03-5378-6161 (24時間)

e-mail: order-ticket@japanphil.or.jp

「ミュージックポート ヨコハマ・シリーズ」定期会員の特典

横浜ベイホテル東急(横浜みなとみらいホール向かい)にて、メンバーズ優待を行っております。

飲食: 下記店舗で、飲食料金が10%OFFとなります。(4名様まで) ※除外日および対象外メニューあり

オールディダイニング「カフェ トスカ」/ラウンジ「ソマーハウス」/日本料理「大志満」

中国料理「スーツァンレストラン陳」

※会計時に「ミュージックポート ヨコハマ・シリーズ」定期会員券をご提示ください。※この割引は日本フィルのコンサート開催日以外にも有効です。
※指定以外の店舗、および宴会は対象外です。ご了承ください。※他の特典・割引との併用はいたしかねます。

公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団

(1956年6月創立)

●創立指揮者/渡邊曉雄

●桂冠名誉指揮者/小林研一郎

●名誉指揮者/ルカーチ・エルヴィン

●名誉指揮者/ジェームズ・ロッホラン

●客員首席指揮者/ネーメ・ヤルヴィ

●首席指揮者/カーチュン・ウォン

●桂冠指揮者兼芸術顧問/アレクサンドル・ラザレフ

●フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)/広上淳一

公式X(元Twitter)
@Japanphil



公式
アカウント



ソロ・コンサートマスター

扇谷泰朋
木野雅之
田野倉雅秋

アシスタント・
コンサートマスター

千葉清加
第1 ヴァイオリン
伊藤太郎

太田麻衣
九鬼明子
齋藤政和

柳 渚
竹歳夏鈴
谷崎大起

田村昭博
中谷郁子
西村優子

平井幸子
本田純一

第2 ヴァイオリン
遠藤直子

大賀聖子
岡田紗弓
加藤祐一

○神尾あずさ
川口 貴
佐藤駿一郎

末廣紗弓
豊田早織
町田 匡

松川葉月
山田千秋
ヴィオラ

☆安達真理

○江藤史織

小俣由佳

小中澤基道

児仁井かおり

高橋智史

中川裕美子

中溝とも子

松澤雅奈

ソロ・チェロ

門脇大樹
菊地知也

チェロ

石崎美雨
伊堂寺 聡
江原 望

大澤哲弥
久保公人
山田智樹

コントラバス
鈴木優介

○高山智仁
成澤美紀

○宮坂典幸
森田麻友美

山口雅之
フルート
齋藤光晴

難波 薫
○真鍋恵子

オーボエ
佐竹真登

○杉原由希子
○松岡裕雅

クラリネット
○伊藤寛隆

○楠木 慶
照沼夢輝
堂面宏起

ファゴット
大内秀介

○鈴木一志
○古吉佑久子

中川日出鷹
ホルン
伊藤 舜

宇田紀夫

○信末碩才

原川翔太郎

☆丸山 勉

村中美菜

ソロ・トランペット

オッタビアーノ・
クリスト・フォリ

トランペット

大銅伸紀
◎大西敏幸
中里州宏

中務朋子
星野 究

トロンボーン
◎伊藤雄太

笠間勇登
バス・トロンボーン
中根幹太

チューバ
柳生和大

ティンパニ
□池田健太

◎エリック・バケラ

パーカッション
大河原 渉

ハーブ
松井久子

楽団長
中根幹太

チーフステージマネージャー
阿部紋子

ステージスタッフ
長橋健太

森田大翔

チーフインスペクター
佐藤駿一郎

インスペクター
宇田紀夫

鈴木優介

ライブラリアン

鬼頭さやか

杉本哲也

◎首席奏者

◎副首席奏者

☆客演首席奏者

□試用期間

理事長(代表理事)

平井俊邦

副理事長(代表理事)

五味康昌

専務理事(代表理事)

福井英次

常務理事(代表理事)

後藤朋俊

常務理事(代表理事)

中根幹太

理事

石井啓一郎

佐々木経世

田村浩章

戸所邦弘

福本ともみ

監事

上條真夫

福澤英哉

評議員会会長

加藤丈夫

評議員

青井 浩

安孫子 正

荒蒔康一郎

石塚邦雄

石村 等

稲垣 尚

内川清雄

大塚宣夫

海堀周造

梶浦卓一

河北博文

喜多崇介

木村恵司

久保田 隆

小林研一郎

島田精一

津田義久

西澤 豊

野間省伸

葉田順治

村上典吏子

山口多賀幸

名誉顧問

熊谷直彦

島田晴雄

田邊 稔

アドバイザリー・ボード

小野敏夫

小網忠明

後藤 茂

武田隆男

田邊 稔

溝口文雄

コミュニケーション・ディレクター

マイケル・スペンサー

マネジメント・スタッフ

磯部一史

江原陽子

及川ひろか

小川紗智子

萩島里帆

賀澤美和

柏熊由紀子

小須田萌

佐々木文雄

澤田智夫

篠崎めぐみ

清水佑香子

杉山綾子

杉山まどか

高橋勇人

田中正彦

樋谷祐子

中村沙緒里

西田大輔

長谷川珠子

藤田千明

別府一樹

益満行裕

宗澤晶子

山岸淳子

吉岡浩子

シニア・パートナー

新井康允

伊波 睦

永島義郎

南部洋一

団友

青柳哲夫

青山 均

赤堀泰江

新井豊治

石井啓一郎

伊藤恒男

伊波 睦

遠藤 功

遠藤剛史

大石 修

大川内 弘

大味 修

寛 美知子

金本順子

浦谷隆行

川口和宏

菊田秋一

岸良開城

吉川利幸

木村正伸

小林俊夫

小山 清

斎藤千種

佐々木裕司

佐藤裕子

菅原 光

高木裕子

高木雄司

高木 洋

高倉理美

田沢 烈

立川和男

富樫尚代

豊田尚生

中川二朗

永田健一

中務幸彦

奈切敏郎

橋本 洋

畑井紀代子

平賀法子

福島喜裕